

令和5年度 第2回江別市立病院経営評価委員会 議事録

○日時

令和5年8月9日(水)18:00~19:40

○場所

江別市立病院 2階 講義室

○委員

出席:西澤寛俊 委員(委員長)、石井吉春 委員(副委員長)、西村正治 委員、笹浪哲雄 委員、
樋口春美 委員、山本長史 委員、山田修司 委員、高田明 委員
欠席:水野克也 委員

○その他出席者

江別市:岩淵淑仁 健康福祉部長、及川正男 健康福祉部健康推進室長、
東嘉一 総務部次長、石田賢治 総務部財務室長
市立病院:長谷部直幸 病院事業管理者、富山光広 院長、黒木純子 看護部長、
白石陽一郎 事務長、中村哲也 次長、加茂順一 経営推進担当参事、
藤村和憲 施設整備担当参事、川島雅一 医事課長、佐藤卓也 健診管理課長、
土居恵 患者支援センター室長

○傍聴者

6名

○次第

1. 委嘱状交付
(委員長・副委員長選出)
2. 開会
3. 議事
 - (1)報告事項
 - ①病院事業経営状況(4月~6月分)について
 - ②経営再建計画指標管理について
 - ③患者支援センターの取り組みについて
 - ④江別市立病院経営強化プランの策定に向けて
 - (2)協議事項
 - ①令和4年度 点検・評価に関する意見書(案)について
 - (3)その他
4. 閉会

【議事録】

| | |
|----------|--|
| | <p>—— 議事(1)報告事項 ① ——</p> |
| 西澤委員長 | <p>報告事項の①病院事業経営状況(4月～6 月分)について、説明願います。</p> |
| 医事課長 | <p>(資料1 P1「診療収益の状況」説明) (資料1 P2「病院事業経営状況調」説明) (資料1 P3「入院実績と計画」説明) (資料1 P4「外来実績と計画」説明) (資料1 P5「損益管理簿」説明)</p> |
| 西澤委員長 | <p>この件について、質疑ありますか。</p> |
| 委員 | <p>(質疑なし)</p> |
| | <p>—— 議事(1)報告事項 ② ——</p> |
| 西澤委員長 | <p>次に、報告事項の②経営再建計画指標管理について、説明願います。</p> |
| 経営推進担当参事 | <p>(資料1 P6～8「経営再建計画 指標管理表」説明)</p> |
| 西澤委員長 | <p>この件について、質疑ありますか。</p> |
| 高田委員 | <p>P6の(2)のところで、逆紹介率、令和2年度で 31.7%と、送られてきた資料で読ませていただいたんですけども、これぐっと跳ね上がってますよね。そして(令和)3年4年と10%台で落ち込んでいるという数字なんですけども、なんでこんなふうに令和2年度だけ跳ね上がったのか、ちょっと教えてほしいです。</p> |
| 経営推進担当参事 | <p>逆紹介を行う理由にはいろいろなケースがあるのですが、令和2年度は医師の退職に伴い、当院で診療を継続することができなくなった方を市内のクリニックに紹介、当院視点でいうと逆紹介をさせていただいた場合に大きく伸びるケースがございまして、そのような要因が一つあるのかなという風に考えてございます。</p> |
| 高田委員 | <p>わかりましたけど、一般的にいう逆紹介率っていうのは、一般的には30%ではないということですね。特異なケースというか。</p> |
| 経営推進担当参事 | <p>仰るとおりです。</p> |
| 高田委員 | <p>わかりました。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| <p>石井副委員長</p> | <p>先に説明いただいた4月～6月の診療実績にも関わりますが、基本となる1日当たり入院患者数・外来患者数というのが、目標に対して令和4年度でも未達だったということで、令和5年度においても現時点の実績を見ると特に入院では達成が厳しいように見受けられます。これはある意味、令和5年度の目標値が、目標として目指すべきところの数字として、実態と乖離が出すぎているとも見て取れますので、現実的に達成可能な目標を持って、少なくともそこは絶対にクリアするというやり方をした方が良いかもしれません。我々も、現場レベルでは頑張っていたと聞いていますし、理解しているつもりですが、それと数字が乖離しているということはモラル的にも問題があると思いますので、もう少し考えていただいた方が良いのかなと思います。</p> <p>実績がこれ以上落ちては困る水準まで落ちているわけではないと思いますので、頑張ってください目標値として設定することも考えていただけたらと思います。</p> |
| <p>西村委員</p> | <p>石井先生のご発言、きわめてもつともだなと思って聞いておりました。目標値を立てるときに、ある程度幅を持って立てることは具体的には可能なのでしょうか。例えば、今お話があったように「理想的な目標」と「最低これだけは達成したい目標」を持つようなことは。ただ線を引いて、いつもこれだけ足りないんですというような表現をされても、なかなか次の意欲が沸いてこないし、先ほどご意見のあったような感想を持たれる方も出てくると思うので、ご検討いただけたらと思います。</p> <p>それからもう一つ質問なのですが、先ほど逆紹介率については医師の退職による跳ね上がりだというご説明をいただきましたが、紹介率も令和2年度に前年度から5%上がっていて、コロナの影響もあったかもしれませんが、そして令和5年度は25%という目標を立てていますよね。こちら辺の背景をご説明いただけたらと思います。</p> |
| <p>経営推進担当参事</p> | <p>石井委員のご指摘の通りと思いますので、今後計画の策定に反映させていきたいと思います。</p> <p>紹介率の計算方法についてですが、分子として紹介患者数と救急搬送患者数、分母として初診料を算定する患者数となっております。コロナ禍においては、当院では発熱外来を開設しておりましたので初診が増える形となりました。その結果として分母が大きくなったために紹介率が下がっているという要因が一つあります。紹介患者数について伸び悩んでいるということも多少ありますが、紹介率が下がっている原因としては、初診患者数が増えたことによる影響が大きいと分析しております。</p> <p>令和5年度目標としている紹介率25%という数字に関しては、計画自体が令和3年度当時に立てた目標であり、令和元年度の実績などを踏まえ</p> |

| | |
|---------------|---|
| <p>西澤委員長</p> | <p>て、設定したものでしたので、その後のコロナの発熱外来が江別市の中でも当院は比較的多く患者さんが受診された状況でしたので、そのような影響まで反映させた目標数値を立ててはいなかったため、その分、数字の乖離があると考えております。また、紹介率、逆紹介率の計算方法が診療報酬改定で若干変更になった部分もありますので、その影響もあるものと考えております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>いくつかの要因があると思いますが、コロナの影響はかなりあると思います。確かに発熱外来を設置していると、普段受診されない方も多く受診されますので、初診患者数が増えて紹介率の分母が大きくなることとなります。場合によっては、紹介率を計算する際にコロナ関係の初診患者数を除いた結果も参考として持っておくと良いかもしれません。</p> <p>委員会資料においても、コロナ関連の影響が予測される部分については委員からの質問も想定されますので、そのあたりの準備もよろしく願いしたいと思います。</p> |
| <p>石井副委員長</p> | <p>目標値との乖離ということで、1点だけ言い忘れました。</p> <p>産科の分娩数、出生数に関しても、コロナの影響により北海道だけではなく全国的に減っており、いわば環境がコロナで大きく変わってしまった要素もあるため、それが目標との乖離の原因と考えられる部分もあると思います。ある意味、頑張らなくちゃいけない項目なので、本来は申し上げるべきではないかもしれませんが、目標値は下げなければならない部分もあるかもしれません。</p> <p>環境変化に関することはちゃんと見ていかないと、どう頑張っても実現できないということになりかねないと思いますので、そこは少しきめ細やかに見ていただけたらと思います。いずれにしても頑張らなくてはいけない項目は高い目標値のほうが良いに決まってはいるのですが、それでもやはり職員がちゃんと達成感を持ってやっていただかないと困るという、そういう趣旨でございます。非常に微妙なニュアンスになってしまいましたが、よろしく願いしたいと思います。</p> |
| <p>西澤委員長</p> | <p>ありがとうございます。西村委員もよろしいでしょうか。</p> |
| <p>西村委員</p> | <p>はい。</p> |
| <p>西澤委員長</p> | <p>ただいま貴重な意見をいただきましたので、次回以降資料を提出するときには、そのあたりも考慮して作成いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。ほかに質疑ありますか。</p> |

| | |
|------------|---|
| 委員 | (質疑なし) |
| 西澤委員長 | <p>—— 議事(1)報告事項 ③ ——</p> <p>次に、報告事項の③患者支援センターの取り組みについて、説明願います。</p> |
| 患者支援センター室長 | <p>(資料1 別冊「患者支援センターの取り組み」説明)</p> <p>※プロジェクター投影あり</p> |
| 西澤委員長 | この件について、質疑ありますか。 |
| 西村委員 | <p>先ほどの紹介率の件と関連して、紹介患者数の推移というのは大事なデータであると思います。分母と分子の問題があるので、より重要なのは絶対数で患者紹介数が増えてくるかどうかという問題ですので、別冊資料P11にあるようなデータを今後も定期的に出していただいて、実際に患者紹介数の絶対数が増えているかどうかを、目に見える形でお示しいただきたいなということが1つ目です。</p> <p>それから2番目として、予防的な医学、先ほどご説明いただきました骨粗鬆症予防の取り組みというのは大変すばらしいことで、大事だと思うんです。高齢者がものすごく増えている中で、骨粗鬆症だとか骨折だとかこういったことに関心のある人はものすごく増えていて、私共のクリニックでも、DEXAではないんですけども簡単な機器で骨密度を測り始めたら、随分たくさんの方が希望されるんです。ですから、こういった健診センターで大きなパンフレットを作ってPRすればですね、私は高齢者であれば半数以上の方が希望されるのではないかと思います。そういった人の中から、おのずと病院受診につながる方も出てきますし、病院自体の宣伝にもなりますので、是非こういった取り組みを強化していただきたいなと思います。</p> <p>最後に、患者満足度調査というのは、私が大学にいたときにも毎年実施されていまして、結果が各教授や病棟長、外来長に必ず報告されるんですね。そういったことで担当者はそれなりに皆気にしていますので、こういったものは単にやるのではなくて、出来るだけ働いている方々みんなが共有できるような形でオープンにさせていただくことはとても大事だと思います。また1年に1回くらいはですね、こういった(委員会の)場にも簡単な報告で良いので、病院がどのくらい満足度が高いのかということを示していただくのも良いかなと思います。</p> |
| 高田委員 | 今、この資料を先ほどから聞いているんですけども、P11ですか、あいさつ訪問によって市内クリニックから市立病院への期待が大きいことを実感と、ありますが平成の時代はこういうことやっていなかったんですか。僕が何を言いたいかというとな、市内クリニックが市立病院に期待しているこ |

| | |
|-------------------|---|
| | <p>とを実感、って書いてあるでしょ。今かい、とそういう感じがするんだよね。じゃあ今までやっていなかったの、と素朴に感じるんですよ。地域連携、紹介率、これらを考えたら、渉外活動で市内唯一の公立病院としてやっていて当たり前だろうと。と、僕は思うんですよ。だから今かい、ってこういう感じがして、ある意味ショックだったんですよ。今更実感かと。その辺どうなんですか。</p> |
| <p>患者支援センター室長</p> | <p>ご質問ありがとうございます。あいさつ訪問はこれまでも実施しております、「実感」という表現がちょっと良くなかったかもしれないのですが、意味合いとしては「再認識」という方が適切かもしれません。</p> <p>これまでは患者支援センターという組織がなくて、地域医療連携室単独でできる渉外活動には限界があったのですが、令和4年度からセンター化したことで、私のような室長という役割も実配置され、今まで足りなかった渉外活動を強化しなければと思い、現在活動しているところです。中でも市内クリニックの訪問は重要と考えて取り組んだ中で、再認識、再実感したという状況です。</p> |
| <p>高田委員</p> | <p>わかりました。</p> |
| <p>西澤委員長</p> | <p>高田委員のおっしゃることもよくわかります。訪問はしていたが、その結果どうなったかというデータを作っていなかった、今まではバラバラにやっていたから全体がどうなっているのかわからなかったという状況だったと思います。それが今回、組織改編によりセンター化されたことで、統括する部門ができて、活動についても計画的に実施し結果のモニタリングもするようになったということは大きな前進であると思います。</p> <p>高田委員からすると、当たり前のことであると思うのですが、今までそうっていなかったということは事実ですので、確かにもっと早くなぜやっていなかったのかと思われるかもしれませんが、今回、取り組まれていることを報告いただけただので、今後もっともっと展開していただけたらと期待しています。</p> |
| <p>石井副委員長</p> | <p>高田委員が仰ることはその通りと思いますが、逆に言うと、こうやって実績が上がってなおかつまだ伸びしろがあるという要素を一つずつ見つけるしか、実際のところ経営再建の取り組みというのではないと思います。むしろ今回の報告は、我々としても評価すべき取り組みであるということをこの委員会でしっかり議論することで、病院側にも更に組織的に頑張っていただきたいと、申し上げておきます。</p> |
| <p>西村委員</p> | <p>地域医療連携というのはこれからの病院にとって大変重要なテーマですので、もう1点確認させてください。</p> |

| | |
|-------------------|---|
| <p>患者支援センター室長</p> | <p>江別市立病院から地域のクリニックだとか、江別市近郊の病院やクリニックに対し、いわゆるパンフレットなどを配るということは定期的にやっているのでしょうか。</p> <p>「地域連携だより」というものを発行しておりまして、年に1回から3回と不定期ではありますが、地域の先生方に発信しておりました。今年度は効果的な発信となるように、事務局の広報担当の協力をいただいて誌面を一新してクオリティを高めた内容で、定期的な発行を目指しております。</p> |
| <p>西村委員</p> | <p>大変大事なことなので、是非積極的に進めていただきたいと思います。</p> <p>また内容として、例えば江別市立病院は素晴らしいCT装置を持っていますよね。これデュアルエネルギーCTって北海道大学病院でもできない技術を持ったCTが導入されていると聞いていますので、それがどういう風に使われているかとかね、例えば血栓塞栓症などは地域を広げれば必ず患者はいるはずなので、そういった方の診断に使えるんだということを地域にアピールするというようなことも含めてですね、各科の得意技といいますか、医師が増えたですとか、こういった検査ができるですとかそういう情報をどんどん積極的にパンフレットを通じて発信するということが大事だと思いますので、是非定期的に、そういったものを作っていただきたいなと思います。</p> |
| <p>樋口委員</p> | <p>今回、患者支援センターを立ち上げて取り組まれている内容について、みなさんにもわかるように資料化し、こういった委員会の場でご報告いただけたことは、私としては何年も評価委員をやってきた中で、とても嬉しく思っています。</p> <p>ただ、多彩な取り組みをされているので、いろいろなことを患者支援センターでやる上で、患者さんや市民の皆さんに医療を提供するにはという核となるコンセプトのようなものを考えて、そこから枝分かれしていくように取り組みを明確にしていくと、もっと良いのかなと思いました。</p> <p>これからもいろいろなプロジェクトやワーキンググループが出てくると思いますが、すべて患者支援センターで担うわけにはいかないの、そのあたりの整理、役割と機能を明確にするということを考えていただけたら良いのかなと思います。みなさんの頑張りがすごくよく見えるので、応援したいなと思います。ただ、あいさつ回りイコール患者数増加という、そう単純なものではない所もあるので、そこは気を付けて、よく分析をしていただけたらと思います。</p> <p>あと、この組織自体に多職種の方が所属していると思いますので、どんな職種の方がいるのかということ、もうちょっと明確にした方が良いかなと思います。意見として申し上げますので、よろしくをお願いします。</p> |

| | |
|----------|---|
| 西澤委員長 | <p>ありがとうございます。ほかに質疑ありますか。</p> |
| 山田委員 | <p>医療のことは素人なので、ちょっと分からなくて以前調べたときに、逆紹介率とか紹介率というのは、地域医療連携で密に連携が取れているかどうかの指標になると書いてあったので、今回注目して見ていたのですが、令和3年度の紹介率の数値について、患者支援センターの取り組みP11(21.67%)と、資料1P6(19.9%)とでデータが違っていたみたいなのですが、どちらが正しいのか教えていただけたらと思います。</p> <p>先ほど分母と分子のお話があったので、もしかしたら計算式が違うのかもしれないのですが。</p> |
| 経営推進担当参事 | <p>後ほど改めて確認させていただきたいと思いますが、資料1P6に記載の経営再建計画指標管理表のほうが正しい数値と考えていただければと思います。何らか計算方法が違っていたためと思われるので、確認して後日お知らせさせていただきます。申し訳ございません。</p> <p>※委員会終了後確認。資料1P6(19.9%)が正しい。別紙正誤表のとおり。</p> |
| 西澤委員長 | <p>では確認いただいて、後日お知らせいただくということで、よろしくお願いいたします。</p> |
| 山田委員 | <p>ありがとうございます。</p> <p>以前、市民の意見を聞くという政治がらみの機会がありまして、その時に、遠くからわざわざ市立病院まで行かないという話をされた方がいました。</p> <p>それで今回、患者支援センターの取り組みのP21に地域別患者数のデータがあって、先ほど南空知方面のクリニックにもあいさつに行かれているということだったので、なるほど南幌町からの患者も増えているのかなと思ひ、計算すると11%と結構多くの方が来られているなど。近いとか遠いというよりも、患者にとってはどこの医療を使うかということなのかなと感じました。</p> <p>一方で、江別地区、野幌地区、大麻地区で考えると、やっぱり近い方が来ますよねということが数字上も表れているのかなと思いますが、南幌から見ると江別の病院のほうが近いという感覚もあると。そういったことから、マーケティングというのは非常に大事ななど、資料を拝見して改めて思いました。どうやって大麻地区から(患者を呼び込むか)を、日ごろから考えられているかとは思いますが、是非取り組んでいただけたらと思います。</p> |
| 西澤委員長 | <p>ありがとうございます。ほかに質疑ありますか。</p> |

| | |
|------------|---|
| 山本委員 | <p>今後の江別市立病院の方向性について伺いたいのですが、単純に患者さんを増やすということで新規患者さんが増えると、紹介率は下がっていきますよね。一方で紹介率を上げていく方向でいくと、紹介受診重点医療機関や、もう少しハードルが高いところだと地域医療支援病院を目指すということが考えられますが、江別市立病院としては、かかりつけ医機能というよりも診療所等からの紹介患者さんを増やして、地域の中核病院を目指していくという理解でよろしいでしょうか。</p> |
| 患者支援センター室長 | <p>ひとつは、紹介受診重点医療機関を目指しておりますが、紹介率50%かつ逆紹介率40%という要件がありますので、あくまであるべき姿、目指すべきところとしてとらえております。まずは地域のクリニックから患者さんの紹介をいただくことを優先して増やしていこうと考えており、先ほどの分子と分母の話では分子を中心に増やしていこうという取り組みとなります。そののち、分母をどのような形にしていくかということと思いますが、実際には現在内科の外来待合にはご案内を掲示しているのですが、かかりつけ医機能と、当院のような手術や検査ができる役割を持った病院との連携によって医療が成り立っているという内容のポスターを掲示しており、このことについて、患者さんにご理解いただくため取り組んでいるところです。私としてはそのように考えているのですが、いかがでしょうか CEO (=病院事業管理者)。</p> |
| 事業管理者 | <p>大変適切なお回答であったと思います。</p> <p>目指すべきところの数値目標を設定して取り組むということは当然大事なことですが、私共が医療機能として信頼され、安心して医療提供を受けていただける、キャッチボールがスムーズにできる、そんな医療機関を目指していくということが最初の原理原則とっております。数値をここまで上げなくてはならないということではなくて、結果としてそこに到達していれば良いなという気持ちであります。</p> <p>ですので、医療環境も様々に変化してまいりますし、疾病についてもコロナが突然流行し始めたりなど、その都度、容態を変えながら対応し続けなければならないと考えており、数字はその先についてくるものと考えております。</p> |
| 山本委員 | <p>ありがとうございます。</p> <p>それからもう1点、医師数が増えているようですが、何か特別な取り組みをされていらっしゃるのでしょうか。教えていただければ。</p> |
| 事業管理者 | <p>もし特別な方法があるのであれば、是非教えていただきたいですが、様々な取り組み、いろいろな形での働きかけを行っております。例えば、前回の委員会でも少しご説明しましたけれども、どのような医療を目指すか</p> |

という問いに対して、「高度先進地域医療」をこの江別の地から全国に向けて発信するのだというメッセージを出しつつ、それに向けて医育大学とのつながりを深め、研究に取り組みながら医療を展開するということを是非進めていきたいということで、様々な手法で発信し続けております。

本日お手元に資料はありませんが、北海道医報という医師会の雑誌がございまして、そこに「江別市立病院の挑戦」ということでこういうことを目指していますという、将来の、近未来の医療の在り方として提案しております。そういったアピールも重要なことと思っておりますけれども、それが医師の増加につながるということは当然期待してはいるのですが、いきなりその取り組みが直接医師を増やすことにつながるようなマジックはありませんので、そこを目指しつつ地固めをしているというのが取り組みの一つでございます。

またそういう形で、働く人のモチベーションが上がるようなことを、私共の病院は目指していますということで、新たに当院に関心を持って面接を受けたいと来られる医師の先生もおられますので、そういったチャンスを増やすことにもつながっていると思います。

まあ、いろいろなところに網を張っているといえますか、展開しているつもりなのですが、アピールすることが重要だと思ってやっております。もっと地道な活動といえますか、1対1の活動、PRも必要だということは従来通りでありまして、各医育大学や医療機関への働きかけも続けているところであります。

山本委員

どうもありがとうございます。

西澤委員長

今回、患者支援センターの取り組みをご報告いただいたことで、これまで足りなかったこと、現在頑張っていること、今後に期待することなどが見えましたので、委員会としても良かったと思います。また、患者支援センターだけで頑張るのではなく、それぞれの現場ときちっと連携、情報共有することでもっともっと良くなっていくと思います。

また、私たちは経営評価委員会ですから、どうしても市立病院の経営についてフォーカスしてしまいますが、やはり医療というのは江別市立病院だけが経営良ければいいのかというと、そういうものではありません。地域の医療機関すべてが、ある程度安定して、そこで連携しながらやっていくのがベストであり、市立病院だけの利益で考えてはいけないという部分もあると思います。山本委員はお立場上、そういうニュアンスでのご発言だったのではないかと思います。市立病院には地域の中核を担う総合病院として、地域医療支援病院や、紹介受診重点医療機関といった、地域からの紹介を受けて治療が終わったら地域に還すような病院を目指していただきたいということであると思います。しかしながら、一方でかかりつけ医機能も持っている、そのあたりどのようにバランスを取っていくかというの

| | |
|----------|---|
| | <p>は非常に大事なことだと思います。そういうことをこれからきちっと考えて経営していかなければならないということであれば、この委員会にもそういう情報を提供いただき、委員会で議論して意見をさせていただければと考えています。</p> <p>いろいろな意見をいただき、充実した議論ができたと思います、ありがとうございました。</p> |
| 西澤委員長 | <p>——— 議事(1)報告事項 ④ ———</p> <p>次に、報告事項の⑤江別市立病院経営強化プランの策定に向けて、説明願います。</p> |
| 経営推進担当参事 | <p>(資料1 別冊「経営強化プランの策定に向けて」説明) (参考資料「江別市立病院 医療と経営についてのアンケート調査票」説明) ※プロジェクター投影あり</p> |
| 西澤委員長 | <p>この件について、質疑ありますか。</p> |
| 高田委員 | <p>まず1つ、意見として申し上げたいんですけども、この評価委員会始まった段階で、私なんかは地元に住んでいるからね、21時になっても22時になっても私は構わないですよ、この委員会がですよ。だけど、委員長以下皆さん札幌からみえられている方が圧倒的に多いわけですね、時間的に言うと18時から始まっていいところ20時だと。常識的に考えると。そうすれば、この莫大な資料、これをここで説明するというのはね、それだけで20分も30分もかかっちゃう、そしたら議論はできないよねと。ですので、私は評価委員会が始まった段階で、資料はなるべく早めに送ってもらって、委員各位お忙しいと思うけども、読んで送ってもらって、基本的には委員各位が読んでいて、その上でポイントだけ、敢えてここで言わなきゃならないだけの説明にしてほしいと言ったつもりなんですよ。これはたぶん、皆さんご記憶だと思うんですよ。だから申し訳ないけどさ、資料の説明はもっと簡略でいいんじゃないか、これ皆さん読んでいるという前提で。と、私は思います。これは議事とは関係ない話です。</p> <p>で、その上で申し上げたいのは、プラン策定の中で6つほどね、テーマが乗っかっているわけですけども、記載する事項として。で、お願いとしては、これらについて分かりやすくね、これから検討していくと思うんですけども、数値目標も含めて、その裏付けの根拠、こういったことも、市民向けで、わかりやすい表現にしてほしい、というのが、ちょっと抽象的な言い方ですけども1点目です。</p> <p>それと2点目、診療収益がなかなか上がらないっていう中で大変なんでしょうけども、繰入金ね、市本体からの、一般会計の負担です。これ平成22年頃から14～15億円で推移しているんですよ。で、一方再建計画の中</p> |

では4つの経営理念があって、「自律」を掲げているわけですよ。言って要は繰入金をなるべく低減すると。自賄いすると。こういう努力をするという理念だと思っんですよ。その理念からして、この近年14~15億円で続いている負担金、これをね、いくらかでも減らすと。まあ本体も大変だし、そういった意味で、そういう創意工夫をするプランにしてほしいなど。ちょっと抽象的な言い方ですけど、そんな風に要望として申し上げたいと思っております。

それとちょっと話は飛躍するんですけども、昨年ですか、減資、をやつて、約120億円のね累積欠損金はほとんど無くなったわけですよ。それはそれで良いことなんですけども、このことはね、魔法の杖ですよ。出資金という魔法の杖があったからできたことですよ。110何億円の出資金があった。まあそれと相殺して、過去のまあ膿といっちゃ悪いけども、累積欠損金をほぼほぼゼロにしたということです。だけども、その杖を振るつたために出資金はもう無くなったわけですよ。で、これから会計方式を変えるということで、資本的収入を減らして収益的収入に特化する、こういうことですよ。そうすると、これからの出資金の増加はほとんど無いと、こういうことになる。その前提で、是非計画に盛り込んでほしいなと思うのはね、市立病院はこれから出資金がなくなる、ひとつの杖がなくなると、そういう意味で言うと、令和5年度以降は黒字にするんだ、ということで今流れができていますよ、だけどもそれは黒字の努力はするだけども、年によっては赤字かもしれないし、想定外のことが起こるかもしれない。だから一般企業で言うリスク管理、当たり前だと思っんですよ、クッションが無くなりますからね。そういう意味で言うと、この5か年計画にぜひ盛り込んでほしいと思っているのは、リスク管理のね、引当金を組み込むべきじゃないかと、いう風に思っんですよ。具体的に言うと、負債性引当ですよ。それを、会計の中に新しい科目で盛り込んでいく。で、私案的に言うと、診療収益の例えばですよ、1%を目処として、50億円の収益があるとすると、5千万円ですよ。それを目処として、引き当てていくと。引き当てるということは費用の支出ですからね、それは収益がないとできない話になるから、収益が大変だけど費用だけ出せというのは本当に大変な作業だと思っんですけども、この市立病院の今後安定した財務、経営を推進するためには、そういった新たな勘定科目を設けて、計画の中に盛り込んでもらえないもんかな、ということ意見をとして申し上げたい。以上です。

西澤委員長

ほかの委員からこの件に関して何かありますか。

委員

(意見なし)

西澤委員長

では事務局から回答あればお願いします。

| | |
|----------|---|
| 経営推進担当参事 | <p>まず説明が少し長くなってしまったことはお詫びいたしたいと思います。</p> <p>その他の点につきましては、この場では直ちに回答する内容ではないかと思しますので、引き当ての関係については専門的な判断が必要になってくると思いますし、繰入の関係につきましては関係部署との協議などもございますので、いただいたご意見を踏まえまして、強化プランの策定に向けて案を作っていくということで考えたいと思います。</p> |
| 高田委員 | はい、それで結構です。 |
| 西澤委員長 | <p>経営強化プランの策定に関して、高田委員からかなり重要な発言をいただいたと思います。これは事務局だけではなくて、私たち評価委員会としても、それに対してきちっと考えていかなければならないし、議論の必要があるのではないかなと思います。プランに関しての議論をするには、ご発言にあったとおり2時間の委員会だけではなかなか難しいかもしれません。資料の説明についても、高田委員はかなりお詳しいので簡単な説明で構わないかもしれませんが、私も含めてほかの委員の中には、直接説明していただかないと資料の正しい理解が難しいことも考えられます。今のままの定例開催の中で議論しようとする、高田委員のご要望に応えることはできませんし、プラン策定に関して委員会として勉強し、理解し、議論するためにも、別途意見交換できる場を設けたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p> |
| 高田委員 | <p>私が今申し上げたのはね、ものすごく大きな話であって、この場で、指定管理者といえどもね、はいわかりましたとか、はい分かりませんか、そういうレベルの話じゃないと思うんですよ。おっきな話ですから。だから、ここで即答してくれなんて全然そんなことは、あり得ません。けども、その辺も、今申し上げたこともね、検討の対象にしてほしいということをお願いしていますのでね、ここで白黒つけろだなんてそんなレベルの話ではもちろん無いと、そう思っています。</p> |
| 西澤委員長 | <p>白黒というか、私たちも理解しながら議論して、少しでも助言できればしたいということでございます。そのためにも、出来れば経営強化プラン策定に関して議論できる会を設けたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p> |
| 石井副委員長 | <p>今回、経営強化プランを作る過程では、少し議論の時間を取らないと我々も消化不良を起こしてしまうので、委員長が仰ったとおりのプロセスを上手に入れたほうが良いと思います。それが1回なのか2回なのかは分かりませんが、よろしく願います。</p> |

| | |
|---------------------|---|
| 西澤委員長 | ありがとうございます。では、私と事務局で相談しまして、議論の機会を設けることについて検討させていただきます。回数等は追ってご連絡するというので、お任せいただけますでしょうか。 |
| 委員 | (異議なし) |
| 西澤委員長 | ありがとうございます。ご賛同いただきましたので、調整して後日連絡させていただきます。 報告事項について、ほかに質疑ありますか。 |
| 委員 | (質疑なし) |
| ——— 議事(2)協議事項 ① ——— | |
| 西澤委員長 | 次に、協議事項の①令和4年度 点検・評価に関する意見書(案)について、説明願います。 |
| 経営推進担当参事 | (資料2「令和4年度 点検・評価に関する意見書(案)」説明) |
| 西澤委員長 | 意見書の内容については、前もって委員の方々に意見をいただいて修正したものでございますが、追加で修正が必要であればご発言いただきたいと思えます。 |
| 委員 | (意見なし) |
| 西澤委員長 | では、この内容で「令和4年度 点検・評価に関する意見書」として決定させていただきます。なお、意見書については後日、私のほうから市長へ手渡ししたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 |
| 委員 | (異議なし) |
| ——— 議事(3)その他 ——— | |
| 西澤委員長 | 次に、その他について各委員から何かありますか。 |
| 委員 | (意見なし) |
| 西澤委員長 | 事務局から何かありますか。 |
| 経営推進担当参事 | 次回委員会の日程につきまして、本日皆さまに配布した日程表に基づき調整したいと思えます。皆さまから提出いただいたのち、日程を調整し、確定し次第ご連絡させていただきます。なお、全員の都合がそろわない場合 |

| | |
|--------------|---|
| <p>高田委員</p> | <p>には、出席者が多い日程で決定させていただくことがありますので、ご了承願います。</p> <p>また、先ほど委員長から委員の意見交換の場を、というお話がございましたので、委員長と事務局において調整の上、改めて皆さまにお知らせしたいと思います。</p> <p>その他ということだったんですけども、ちょっと私ひとつ納得いかない、ことがありましてね、この評価委員会とは直接関係ないのかもしれないですけども、私は関係あると思ってるんですよ。</p> <p>先般、新聞報道に大きく出た、眼科医ですか。ドクター。酒飲んで、ぶつけたって話です。眼科だったか、科はちょっと忘れちゃったけど。この件についてね、私はこれ不祥事だと思ってるんですよ。今どき交通三悪なんて、最も恥ずべき行為じゃないですか。それをやっちゃった。このことについてね、当局から、このまま会議終われば、何ら説明も釈明もない。これって、如何なものか、私は憤慨しているんですよ。</p> |
| <p>西澤委員長</p> | <p>わかりました。</p> |
| <p>高田委員</p> | <p>委員長が悪いって言ってるんじゃないんですよ、これ当局の話です。どうなんでしょう。</p> |
| <p>西澤委員長</p> | <p>失礼しました。本当に高田委員の言う通りだと思います。この件につきまして事務局から願います。</p> |
| <p>院長</p> | <p>管理監督者として、私から説明させていただきます。</p> <p>当該医師が飲酒をして、車に追突したということで、法令順守すべき公務員の立場ですので、まだ裁判所等からの結果は出ておりませんが、現在診療閉鎖し自粛、自宅待機させているところです。</p> <p>当該医師による診療は閉鎖しており、市民のみなさんに大変ご迷惑をおかけする状況になりましたので、市内の眼科の先生方にご協力をお願いしたり、医育大学に対しても医師派遣についてお願いをしており、早急な診療体制の再開が可能となるように現在取り計らっております。</p> <p>市民の皆さんにご迷惑をおかけし、大変申し訳なく思っております。監督者として、陳謝いたします。申し訳ございませんでした。</p> |
| <p>西澤委員長</p> | <p>ただいま院長からご発言ありました。確かに、委員から言われなくてもこのことはやっぱり報告ないしは説明して頂きたかったと思います。個人の責任ではあるのですが、やはり管理責任というものはあると思います。今回のことは重く受け止めて、今後このようなことが無いようにしていただきたいと思います。</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>また医師として、最近新聞で医師の犯罪だとか、してはならぬことをしてしまったという記事を見かけることが多いような気がしております。私も医師の一人として恥ずかしく思います。人の命を預かるにも係わらずこのようなことを起こす医師がいることは、医療界全体が反省しなければならないことではないかと思えます。私たちは、国民から信頼されての仕事だと思っていますし、その信頼がなかったら、私たちの仕事というのは成り立ちません。これは医師に関わらず医療従事者共通のことだと思っています。</p> <p>今回の件について、市民の皆さんへの謝罪と、今後同じことが起こらないようお願いしたいですし、市民に信頼される病院であってほしいと思います。よろしくお願いいたします。</p> |
| 石井副委員長 | <p>この件は、新聞をよく見ていなかったのが今初めて伺ったのですが、むしろ問題行動というのは起こりうる、やったことを認めるというわけでは決してありませんが、可能性として起こりうることだと思えます。</p> <p>大事なことは、起こったことを受けてどうすべきか、という所であり、同種のこと2度起こったり3度起こったりすることが一番まずいという意味で言うと、全体の風紀をどう引き締めるか、繰り返さないための措置といえますか、むしろ前向きに職員に徹底していただくような心がけ、取り組みについてきちんと議論していただければと思います。</p> <p>おそらくご本人は社会的にも処分されるし、病院における処分も何らかの形であると思うのでそれは粛々と進めていただいて、組織的には起こってしまったことを繰り返さないための取り組みに期待したいです。</p> |
| 西澤委員長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>委員から、ほかに何かありますか。</p> |
| 西村委員 | <p>確認なのですが、先ほど委員長が提案された意見交換をするというのは、今後の経営強化プランの策定に関してディスカッションするという意味でよろしいですか。</p> |
| 西澤委員長 | <p>その通りです。</p> |
| 西村委員 | <p>私はこれからの5年間の計画というのは、極めてこの病院にとって重要なので、今日は報告事項ということでとりあえずの案として提案されたという理解なのですが、そういう理解でよろしいですか。次期計画は、病院の基本的な骨格を作るものですから、報告されて、はい終わりましたという感じではなくて、私もこういったものに対して意見交換をした上で、直すべきところは直すというようなことが必要なのかなと思って聞いていたのですが、そういう意味ですね、おっしゃったのは。</p> |

| | |
|-------|--|
| 西澤委員長 | はい、そうです。 |
| 西村委員 | 大賛成です。 |
| 西澤委員長 | 他に何もなければ終了しますが、皆さんよろしいでしょうか。 |
| 委員 | (異義なし) |
| 西澤委員長 | <p>—— 閉会 ——</p> <p>以上をもちまして令和5年度第2回「江別市立病院経営評価委員会」を終了します。</p> <p>19:40閉会</p> |